

MAX STUDY GROUP

Vol. zero 2015年10月3日

スタディーグループのコンセプトとデザイン

A はじめに

私たちの社会は今、激動の変化に直面しており、その波は教育界にも押し寄せています。安倍内閣の『日本再興戦略 ～Japan is Back』(2013年6月)に象徴されるように、社会のパラダイムシフトにともなう教育の変容が重要な課題となっています。一昔前にはその認知もされていなかった「21世紀型教育」そして「グローバル教育」という言葉が今や教育界の大きなキーワードとなっていることもその1つと言えます。

これまでも教育は様々な変化を迫られてきましたが、これまではどちらかと言うと、既存の価値観、枠組みの連続性の中で、質的な向上を求められることが主だったと言えます。しかし、現在私たちが直面している課題は、人材像の再定義、アクティブラーニングによる授業形態の変容、知識・思考・スキルのインターアクション、入試改革、教科横断型教育など、既存の概念・枠組を超え、新たなパラダイムの中で「教育を変化させる」ということに集約されます。

その中で、私たち教師がどうこれらの課題に向き合い、どう自分に向き合い、どう変わっていくか、ということが問われてきます。教育改革の中で、一番大切なのは、教師の意識改革です。「私たちが変わらなくてはいけない」・・・でも「そんなこと分かっちゃいるけど、やはり実行するのは大変」、というのが本音ですよ。実際、自らに変化を求めていくのはしんどいです。自分の足りないこと、そしてやった経験がないことと向き合っていくことも正直苦しいです。でも、それは誰か一人が抱えている課題ではなく、教員全員が抱えている共通の課題です。だからこそ皆さんとのつながりを大切に、切磋琢磨しながら、一歩ずつ協力して進んでいきましょう。

この勉強会を立ち上げるに当たり、私自身の思いをみなさんに告白すると、まず、何よりも、実は、私自身が苦しく、悩んでいるのです。特に、新しい学校に移り、環境が変わる中で、新しい教育をどう創っていくのか、英語教育をどう変えていくのか、アクティブラーニングと英語教育をどうつなげていくのか、グローバル教育をどのように推進していくのか、などなど×100、、、毎日がいています。ぜひ、この勉強会を通し、みなさんと試行錯誤していく中で自分自身に還元できるものを発掘したいと思っています。

また、当会の発起に関わってくれた米倉氏や渡辺氏から「一緒に勉強をしたい」という声をいただきました。彼らとともに教育の活性化に少しでも貢献できるのであれば、これほど嬉しいことはありません。自

分の思い、知識、スキル、そして経験をみなさんと共有、普及する中で、一緒に考える機会ができれば幸いです。

あわせて、教員の育成が大きな課題だと感じております。ともすると、教員は自らの殻に閉じこもり、また批判を正面からしてくれる人間もいない中で、成長の機会を失ってしまいます。教育において、人は宝です。その人材を若いうちから、しっかり指導して、育てていくことは非常に重要であり、先輩教員の責務ではないでしょうか。しかし、現実には、若手を育ててあげる体制・機会が乏しく、先輩はまず自分自身に自信なかったり、若手を引っ張ることに遠慮してしまい、また、若手も殻にこもっているほうが心地よく、自分からなかなか学ぼうとしないということが多くあります。

この勉強会では、若手の教員も参加されますが、皆さんにとって多くの収穫がある機会だと思います。若手のみなさんは可能性の塊です。この勉強会を1つのきっかけとして、その可能性に気づき、伸ばしていただくと期待しています。そして、私たち、不定愁訴の多い中年組にも新しい刺激とアイデアをください。

そして、中年ひいては老年組は、年を取れば取るほど、経験を積めば積むほど、無駄なプライドが邪魔して学ぶことを避けてしまいます。まずは私たちが真摯に学ぶ姿勢を見せて、若手を引っ張り、育てていけるように頑張っていきましょう。

教育は出会いの場であり、それは私たち教員も同様です。この勉強会で、年齢や経験の差に関係なく、一緒に学ぶことで、相互刺激を受け、切磋琢磨できるように願っております。そして、ここでできたネットワーク、つながりを大切にしていきましょう。

どうぞよろしくお願いいたします。

B 勉強会の開催について

- ① 月に1回程度を目安に、土曜日に開催する。行事や入試の繁忙期は要検討。
- ② 来る者拒まず。去る者は様子見。外部からの参加も歓迎。
- ③ 英語教育を核とした勉強会も予定。時間や日程の調整は要検討。
- ④ その他、様子を見ながら、組み立てていましょう。

C 勉強会のテーマについて

以下の7つのテーマを勉強会の柱とします。もちろん、これ以外でも、様々なテーマを持ち寄って、研究・議論することは歓迎します。

メインテーマ



サブテーマ、取組

メインテーマ	関連テーマ
グローバル教育 キャリア教育 21世紀型教育	グローバル時代の教育、グローバル人材像、グローバルキャリアプログラム SGH、IB、研修プログラム、海外進学、模擬国連 知識・思考力・スキルの育成、アクティブラーニング、課題解決型教育 教科横断型プロジェクト、評価法の開発、ICTの利用
授業スキル	指導法、アクティビティーの組み立て、授業フレームワーク、LESSONプラン
中学入試マーケティング	中学入試動向、マーケティング、新しいニーズ、中学入試改革
大学入試改革	新旧の入試情報、入試改革に向けた授業改革と入試指導
英語教育改革	4技能型教育、外部試験、Can-Do、教材開発、評価法の検討、英語教授法全般
その他	各自の議論、興味による

* それぞれのテーマが関連し合っていますが、便宜上このように分けました。

* その他、参加者の関心に合わせて、この枠にとらわれずにテーマ設定をしていきます。

D 勉強会の方針

- ① 今後は、研究テーマの BG (Background Guide) を事前に用意し、文献や資料を読み、課題を考えてもらうようにする。
 - ・第1回はプログラムの都合上、あえて BG は用意していません。
- ② 講義や研究発表なども行うが、議論やワークショップ、プロジェクトをベースに進め、まさにアクティブな勉強会を目指す。
- ③ 全員が積極的に参加し、どんどん発言をする。
- ④ みんなで協力して勉強会を作り上げる。
 - ・慣れてきたら、議題の持ち寄り、そしてファシリテーターの持ち回りも行う。
- ⑤ できる範囲で無理せずにやる。
- ⑥ ホームページ『Max Classroom.net』の中で、レポートを書き、発信を行う。